

領域・小問ごとの分析	対策の視点
<p>着していないためと思われる。</p> <p>(2) 1 km²は何m²かという問題であるが、正答率は34%と前問より更に低い。誤答を見ると前問同様の誤りが目立つ。</p> <p>(3) 半回転の角の大きさ 正答率は73%と比較的高いが、誤答を見ると半回転の意味が分からず求められない児童がいる。</p> <p>(4) 4直角の大きさ 前問同様正答率は73%であるが、4直角の用語の意味が分からない児童が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◦ (3)、(4)とも用語の意味が定着していない児童が見られる。用語だけの説明に終わらないよう、図を用いて理解をはかる。
<p>3. 正方形の面積 正答率は73%と高いが、誤答を調べると、図形のまわりの長さと同面積とを混同している児童が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 正方形の面積は、(縦の長さを表す数)と(横の長さを表す数)との積の特殊な場合であることをよく理解させたい。
<p>4. 直線が交わって出来る角の大きさ 正答率は75%で、よく理解されている。</p>	
<p>5. 凹凸のある図形の面積 長方形に直したり、幾つかの長方形に分割して面積を求める問題であるが、形を変えた場合の辺の長さがわからず面積が求められない児童が目立つ。 正答率は64%である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 長方形に分ける方法は何通りか考えられる。能率よく面積が求められよう多面的な見方や考え方の指導が大切である。
<p>領域②(量と測定)について</p> <p>面積を指導する場合は、公式化を急がず、単位面積を基本にこれをきちんと敷きつめる時の数が面積であることを理解させる。方眼紙などを利用し実測と計算の両面から求積の公式を導くことが大切である。角の指導にあたって、実測を通して角の概念の理解を高めるようにする。</p> <p>cm²・m²・km²は日常よく使用する単位であるが、単位間の関係が理解させていない。特に単位の換算につまずきが見られる。</p>	